

第9回日韓アジア未来フォーラム

# 東アジアにおける公演文化(芸能)の 発生と現在：その普遍性と独自性

プログラム

日時：2010年2月9日(火) 午後2時00分～5時00分 その後懇親会

会場：慶州教育文化会館 (<http://www.temf.co.kr/gyeongju/>)

主催：(財)韓国未来人力研究院

共催：関口グローバル研究会(SGRA:セグラ)、(財)渥美国際交流奨学財団

## フォーラムの趣旨

東アジア地域協力を考えるに当たって文化的同質性が注目されて久しい。しかし、共通の文化への注目は未だに実を結ばずにいるのが現状である。本フォーラムでは、「文化」をキーワードに東アジア地域協力の歴史性や方向性について考えてみることにする。とくにその大きなポイントとなる公演文化(芸能)における同質性と異質性に着目し、その展開と現在の意義について考察する。いくつかのテーマについて主題発表をお願いし、その後、パネルディスカッション、自由討論を行う。日韓逐次通訳つき。

14:00-14:10

総合司会：金 雄熙(韓国仁荷大学国際通商学部副教授、SGRA研究員)  
開会挨拶：李 鎮奎(未来人力研究院院長、高麗大学経営学部教授)

14:10-14:30  
【基調講演】

## 東アジアの文化的同質性と異質性

全 京秀(ジョン・ギョンス)  
ソウル大学人類学科教授、未来人力研究院専門委員

14:30-14:50  
【発表1】

## 東アジア公演文化の普遍性と各国の独自性

全 耕旭(ジョン・ギョヌク)  
高麗大学国語教育科教授

	<p>東アジア共通の文化遺産である仏教・儒学・漢字などは、韓・日・中の各国においてそれぞれの国の風土と収合しながら独特の文化として形成されてきた。これは伝統芸能の世界でも言えることである。とりわけ、東アジアの視点から伝統芸能の歴史をみると、仮面劇は専門的な芸能者によって伝承されてきた散楽・百戯にその起源をもとめることができる。これは東アジア三国においての共通点である。三国においての仮面劇の成立について考えることにより、共通点はもちろん各国の独自性も浮かびあがってくる。</p>
<p>14:50-15:10 【発表2】</p>	<p style="text-align: center;"><b>音楽と芸能における「伝統」「古典」観</b> <b>—伝統楽器の練習方法の韓日比較から</b></p> <p style="text-align: center;">藤田隆則（ふじた・たかのり）</p> <p style="text-align: center;">京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター准教授</p> <hr/> <p>伝統的な音楽や芸能の観客席に若者が少ないのは、東アジア全体に共通することであるが、日本に比べて韓国は、伝統に若者を巻き込んでいくことに成功しているように見受けられる。この背後には「伝統」「古典」観の違いがあるはずだ。アジアの音楽や芸能には、親や師に似ていることを、個性よりも大切にすることが強かったが、日本では近代、家元制度の強化をつうじて、そこに突出した高い価値が与えられてきていた。本発表では、日本の能の伝統楽器の練習方法などに、そういった価値の反映を見て、韓国における音楽・芸能の「伝統」「古典」観との違いを明らかにするための素材提供をおこないたい。</p>
<p>15:10-15:30 【発表3】</p>	<p style="text-align: center;"><b>芸能が劇場に収まる時</b></p> <p style="text-align: center;">横山太郎（よこやま・たろう）</p> <p style="text-align: center;">跡見学園女子大学文学部人文学科准教授</p> <hr/> <p>東アジアにおける非劇場型の芸能（公演芸術・儀礼・遊び）の多くが、近代化（西洋化）のプロセスを経て劇場で上演されるようになっている。この劇場への適合のあり方に、共通の構造があるのではないかと。この発表では、能と日本舞踊（特に京舞）の事例分析を通じ、東アジア芸能の近代化を考える共通の視点を呈示してみたい。</p>
<p>15:30-15:45</p>	<p style="text-align: center;">休 憩</p>

15:45-16:30	<p style="text-align: center;"><b>パネルディスカッション</b></p> <p style="text-align: center;">進行：金賢旭（韓国仁荷大学講師、SGRA 研究員）</p> <p style="text-align: center;">パネリスト：上記講演者、林慶澤、韓京子+ほかの希望者</p>
17:00	<p style="text-align: center;">閉会挨拶：今西淳子（渥美国際交流奨学財団常務理事）</p>

### 講師略歴

#### ■ 全 京秀（ジョン・ギョンス）

77年ソウル大学人類学科大学院文学修士課程終了、82年ミネソタ大学より博士号（人類学）を取得、81年から82年にかけてミネソタ大学講師、93年 ニュージーランド Auckland 大学訪問教授、97年琉球大学外国人特別研究員、97年から98年にかけて日本国立民族博物館客員教授、現ソウル大学人類学科教授。主要著書に、『文化の理解』（1994年）、『地域研究どのように行う』（1999年）、『文化時代の文化学』（2000年）、『お金も稼ぎ、文化も学び』（2009年）などがある。

#### ■ 全 耕旭（ジョン・ギョンウク）

1959年韓国京畿道生まれ。高麗大学国語教育科卒業。同大学院博士課程修了。高麗大学国語教育科教授。高麗大学民俗学研究所所長、文化財専門委員。主著に『韓国仮面劇、その歴史と原理』（ヨルファ堂出版、1998年）、『咸鏡道の民俗』（高麗大学出版会、1999年）、『韓国の伝統演戯』（ハクコゼ、2004年）などがある。

#### ■ 藤田隆則（ふじた・たかのり）Takanori Fujita

1961年 山口県生まれ。大阪大学文学部美学科卒業（音楽学専攻）。大阪大学大学院文学研究科博士後期課程中退（音楽学専攻）。京都大学人文科学研究所助手、大阪国際大学人間科学部助教授、ミシガン大学日本研究センター客員教授等をへて、2005年より京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター助教授。（社）東洋音楽学会理事。主著に『能の多人数合唱』（ひつじ書房、2000年）。編著に『身体の構築学』（ひつじ書房、1995年）、『民族音楽学の課題と方法』（世界思想社、2002年）などがある。

#### ■ 横山太郎（よこやま・たろう）Taro Yokoyama

1972年秋田県生まれ。東京大学教養学部教養第一学科卒業。同大学総合文化研究科表象文化論コース修士・博士課程修了。東京大学大学院総合文化研究科超域文化学科助手を経て跡見女子大学人文学科準教授。主な学術論文に「世阿弥発見——近代能楽史における吉田東伍『世阿弥十六部集』の意義について」『超域文化科学紀要』9号、2004年9月、「能勢朝次の世阿弥解釈における〈型〉と〈無心〉——西田幾多郎の影響をめぐって」（『国文学 解釈と教材の研究』50巻7号、2005年7月）、「昭和初期における身体性をめぐる文化主義的言説の形成」（『Japon Pluriel(フランス日本研究学会学会誌)』vol. 6、2006年6月）、「檜垣蘭拍子——その歴史と可能性」（『観世』74巻9号、2007年9月）などがある。

## **SGRAとは**

SGRAは、世界各国から渡日し長い留学生活を経て日本の大学院から博士号を取得した知日派外国人研究者が中心となって、個人や組織がグローバル化にたちむかうための方針や戦略をたてる時に役立つような研究、問題解決の提言を行い、その成果をフォーラム、レポート、ホームページ等の方法で、広く社会に発信しています。研究テーマごとに、多分野多国籍の研究者が研究チームを編成し、広汎な知恵とネットワークを結集して、多面的なデータから分析・考察して研究を行います。SGRAは、ある一定の専門家ではなく、広く社会全般を対象に、幅広い研究領域を包括した国際的かつ学際的な活動を狙いとしています。良き地球市民の実現に貢献することがSGRAの基本的な目標です。

## **SGRAかわらばん無料購読のお誘い**

SGRAフォーラム等のお知らせと、世界各地からのSGRA会員のエッセイを、毎週2回（火・金）、電子メールで配信しています。SGRAかわらばんは、どなたにも無料でご購読いただけます。購読ご希望の方は、SGRA事務局（[sgra.office@aisf.or.jp](mailto:sgra.office@aisf.or.jp)）宛てメールアドレスをお知らせください。